

対面・
オンライン
(後日オンデマンド配信有)

エイジ・フレンドリーな地域社会の実現

参加無料

対面 | 先着100名
オンライン | 先着1000名
オンデマンド配信



—住民主体・住環境・データ活用を統合する学際的アプローチ—

令和8年 7月24日 金 14:00~17:00
13:30受付開始

東京大学
本郷キャンパス
HASEKO-KUMA
HALL

超高齢化が進展するいま、誰一人取り残されることなく、障害の有無にかかわらず、全ての人が安心して生き生きと生活し社会参加できる社会の実現が求められています。個人の生活機能を包括的に捉える視点に加え、環境因子への働きかけやデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進が不可欠となっています。高齢者を取り巻く環境を多面的かつデータ駆動型(data-driven)に把握し、科学的根拠に基づいた住環境(都市環境および住宅内環境)、交通、就労環境の整備を通じて、「エイジフレンドリーシティ(Age-friendly cities and communities)」の実現が求められています。そのために、健康科学、建築工学、環境学、情報学等の学際的連携により研究成果を統合し、産官学民の協働の下、イノベーションを創出することが重要です。本シンポジウムは、日本学術会議 健康・生活科学委員会 高齢者の健康・生活分科会が取りまとめた提言を、事例を交えて詳しくご紹介します。皆様のご参加をお待ちしています。



お申し込み

定員になり次第締め切りますのでお早めにお申し込みください

対面参加ご希望の方は
このQRコードから
お申し込みください
先着100名



オンライン参加ご希望の方は
このQRコードから
お申し込みください
先着1000名



プログラム

開会挨拶・本分科会の活動報告と見解書の紹介

森山美知子（日本学術会議第二部会員／広島大学大学院医系科学研究科教授）



第1部

司会 玉腰暁子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院医学研究院教授）

『エイジフレンドリーシティについて』

中村桂子（日本学術会議連携会員／東京科学大学名誉教授）

『アーバンデザインセンター小田原におけるエイジフレンドリーシティの取り組み』

後藤純（東海大学建築都市学部 准教授／UDCOD（アーバンデザインセンター小田原）副センター長）

『住民主体による健康長寿に向けた新たなまちづくり』

飯島勝矢（日本学術会議連携会員／東京大学高齢社会総合研究機構機構長／東京大学未来ビジョン研究センター教授）

『広島県呉市（島嶼部）（一社）まめなの取り組み』

更科安春（（一社）まめな Founder）



第2部

司会 田高悦子（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院保健科学研究院教授）

『住宅内外の環境改善による高齢者の健康・生活支援』

伊香賀俊治（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学名誉教授／（一財）住宅・建築SDGs推進センター理事長）

『地域の交通と福祉の課題解決を目指すCommunity Driveプロジェクト』

～富山県黒部市と広島県福山市における実証～

羽鳥達也（（株）日建設計 執行役員 設計グループ代表）

『自治体保有データとオープンソースデータの突合解析による政策立案事例』

佐藤栄治（日本学術会議連携会員（特任）／宇都宮大学地域デザイン科学部建築都市デザイン学科教授）



総合討論

司会 飯島勝矢（前出）、伊香賀俊治（前出）

指定発言

鹿嶋小緒里（日本学術会議連携会員／広島大学IDEC国際連携機構プラネタリーヘルスイノベーションサイエンスセンター（PHIS）センター長／広島大学大学院先進理工系科学研究科教授）

閉会挨拶 荒井秀典（日本学術会議第二部会員／（国研）国立長寿医療研究センター理事長）



対面参加の方

表面左側のQRコードよりお申込みください
お申込み後、後日、対面参加証をメールにてお送りします
当日、印刷して持参または画面にて提示をお願いします
メールが届かない場合、下記メールアドレスまでお問合せください

会場 HASEKO-KUMA-HALL（東京大学本郷キャンパス）

東京都文京区本郷7-3-1 東京大学工学部11号館1階（正門横の建物）

- 東京メトロ丸ノ内線本郷三丁目駅より徒歩9分

- 都営大江戸線本郷三丁目駅より徒歩9分

- 東京メトロ南北線東大前駅より徒歩4分

マップ 交通アクセス



オンライン参加の方

表面右側のQRコードよりお申込みください
お申込み後、後日、オンライン会議のURLをメールにてお送りします
メールが届かない場合、下記メールアドレスまでお問合せください

イベント情報は
こちら



問い合わせ先

sympo@jsbc.or.jp

オンデマンド配信

シンポジウム終了後に
日本学術会議のHPに
アクセスしてください